馬耳東風

最近では何が起こっても何を見てもあまり感動しなくなったとしばしば耳にする．それだけ，理解できない出来事が多く起こっていると言うことか．その都度心を動かしていたら脳が耐えきれないから安全弁が働いているのか．反対に，感情が老化し，意欲や自発性や好奇心が低下し，頭を働かせなくなったためか．自分自身の反応性が鈍くなったために感動しなくなったとしたら大きな問題だ．精神科医はこの感情の老化は40代から始まるといっている．ある程度の感情の老化は避けられないのならば致し方無いとしても，喜びも悲しみも含め，多くの経験を積んできたことが，少々のことでは感動しない反応性の鈍い心に変化させたとするならば悲しいことである．街を行く人の群れを見ても苦悩気で暗い表情の人が増えているように感じる．あまりにも多忙で，気持ちの余裕がないがために感動する心が片隅に追いやられているのか．子供の頃には様々な事象に大いに感動した記憶があるが，感動が感じられなくなると人間は急速に老化が進むといわれる．興味の出発点には感動があり，感動が感じられなくなると興味も湧かなくなる．今の世の中，どちらを見ても「金」にまつわる暗く，悲しい話題が多くて，憤りを感じることは山とあるが，心が揺り動かされるほどの感動を覚える出来事が少なくなっている．そんな中で，第13回バン・クライバーン国際ピアノコンクールで優勝した辻井伸行さんの快挙はまさに感動・感激そのものである．五感満足な人でさえ出場すること自体が大変なことなのに，楽譜が読めない，鍵盤が見えないというハンディをもった彼が優勝したということは驚異以外の何物でもない．人間の持つ能力の無限さに驚くが，この栄光に至る彼の歩んだ道は我々から見れば想像すらできない次元のことであろう．インタビューで「目が見えたら両親の顔を見たい」と答えたという記事があったが，この14文字には筆者のみならず多くの人が心を揺さぶられたであろう．

今の経済不況の引き金になったリーマン・ブラザーズの破綻の原因は，結局はノーベル賞学者を含めた第1級の経済学者によって「金融工学的手法」を使って創られた「ネズミ講」以外の何者でもないと思われる．実体経済が増大しないで資金のみを複雑に動かして利益を上げるとしたら，それは最初の関係者のみが甘い汁を吸って，いずれ誰かが損するのは自明の理である．単に他人を騙すことのみに奔走していた金融専門家は，何を生き方の理念とし，何に感動したのであろうか．憤りという形で感情が刺激されるのは面白くないが，憤りすら感じなくなってはこれ又面白くない．人間の能力も高齢になると「使わなくなった」時の機能低下が激しいと精神科医はいう．頭も使わないと衰える．一般的には加齢に伴い大脳前頭葉が縮んでくる訳だから，ある程度の機能低下は仕方ないが，機能低下を予防するためには「感情を刺激する生活」を続けることが必須であるといわれる．煩悩で心が占拠されないよう，純粋，無垢な心を中心に置き，好奇心の原点となる感動する心の閾値は何時までも低く保ちたいものである．（青）